

## 熊本大学学術リポジトリ

### Kumamoto University Repository System

Title	協同組合の旗の下に
Author(s)	高石, 重勝
Citation	龍南, 204: 78-96
Issue date	1927-12-20
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2298/8979">http://hdl.handle.net/2298/8979</a>
Right	

## 協同組合の旗の下に

高石重勝

一、はしがき

二、現代學生の背景

一、中間階級の發生と其没落

一、舊中間階級の發生と其没落

二、新中間階級の發生と其没落

一、學生々活の窮迫

一、學生協同組合運動

一、當面の仕事

はしがき

「ブルジョアの子弟と呼ばれ、特殊階級の寵兒と罵らるゝ帝大生が、名と實の伴はざることの甚だしきものあるを知るなり」とは、去る大正十四年末、東京帝國大學々生共濟會に於て東大學生の生計調査を行ひたる結果洩されたる歎聲である。

學生の經濟生活の窮迫は、實に今日吾々の上に被さつてゐる堪へ難き重荷である。それは最早單なる個人的問題として看過するに余りに一般性と重要性とを持つた問題である。見よ、或は家庭教師となり或は印刷工となりして學資の幾分を自ら稼いで

ある者の如何に多き事よ！又さうした職を得ん事を希へる者の如何に多き事よ！、更には家庭よりの送金が或は二〇圓よりないと云ひ、或は一五圓よりないと云ひ、甚だしきは一錢の送金もないといふ者が、其處此處に見出されるといふに至つては、私は何と云つても吾々學生の前途に暗い影の漂ふてある事を思はざるを得ないのである。

それは何故であらう。又それを脱するには如何にすべきか、此二つの問題が吾々が是非解かなければならない問題として與へられてゐるのである。

## 現代學生の背景

現代學生の背景が一般的に言つて中間階級であるといふ事が先づ注意されねばならぬ事である。背景が大ブルジョアであるならば、たとへ彼等が今斷末魔の呻きを擧げつゝありと云へ、今日益々狂暴的に獨占資本の偉力を發揮しつゝあるが故に、吾々の生活がかくも痛ましき窮迫を告ぐる事は斷じてないのである。だが幸か不幸か吾々の背景は、一部少數の者を除いては殆ど全部中間階級である。故に掲ぐる統計は此論斷の誤りならざる事を示すものであると信ずる。(第一表)

第一表  
父の職業統計

職業部	農業	林業	漁業	鑛業	工業	商業	軍人	政治家	官吏	銀行員	宗教家	教育家	醫師	辯護士	記者	藝術家	勞働者	其他	無職	不明	計
法	148	2	1	3	38	160	13	6	125	97	8	45	28	16	3	0	1	4	73	9	780
文	46	2	1	2	7	52	7	0	39	26	22	27	9	1	0	1	1	0	41	0	284
經	61	2	1	2	13	97	5	2	35	50	2	7	11	5	0	0	0	0	30	2	325

工	63	0	0	0	23	65	15	2	63	51	1	28	12	4	4	1	0	6	31	14	383
種	17	0	0	0	2	31	4	0	21	23	2	13	7	1	1	0	1	0	17	0	140
職	36	0	0	1	7	37	3	0	17	16	2	18	63	0	2	1	1	1	19	0	216
職	48	0	1	1	7	34	4	1	24	20	2	7	5	0	0	0	0	0	20	0	174
計	419	6	4	9	97	476	51	11	324	283	89	137	135	27	10	3	4	11	231	25	2,302
比	0.18	—	—	—	0.04	0.21	0.02	—	0.14	0.12	0.01	0.06	0.06	0.01	—	—	—	—	0.10	0.01	—

勿論此統計によつては、職業別なるが故に、同じ農業の中に大地主も中小地主も小作人も含まれて居り、商業の中にも大商人から場末の小商人に至るまであり。

官公吏、銀行會社員等にしてもピンからキリまであつて、横斷的即階級的に觀察することは正確には出来ないけれど、其學資金の收入別統計(第三表参照)より見て、必ずしも學生の大多數が中間階級以上の特種階級に屬するものでない事は、容易に斷定を許されるであらう。即ち學資金の全額を家庭より支給せられてゐる者が全數の七割二分にして、残りの二割八分は何等かの方法に依つて學資を得てゐるといふ事實は、其屬する家庭が商業に於て中小商人、農業に於て中小地主以下、官公吏、銀行會社員に於て中以下たる者が多い事を反映してゐるものと言へないであらうか。

此事は亦、學資の總額より見ても斷言し得る事である。(第二表)

## 第 二 表

### 學 資 金 總 額 統 計

居住 関係 調査 総額	自 宅	親 戚	知 人	借 間	借 家	寄宿舎	下宿屋	素人 下宿	計	比 率
1-5 円	2	—	—	—	—	—	—	—	2	0.001
6-10	31	1	2	—	—	—	—	—	34	0.015
11-15	38	5	2	—	—	—	—	—	45	0.020
16-20	91	12	10	—	—	—	—	—	113	0.048
21-25	79	13	2	1	—	1	—	—	96	0.042
26-30	73	15	14	3	—	14	—	—	139	0.056
31-35	65	11	6	1	—	19	1	—	103	0.045
36-40	53	24	8	6	—	22	1	5	119	0.052
41-45	14	13	7	6	—	28	4	7	80	0.035
46-50	48	32	14	14	1	67	12	30	222	0.097
51-55	8	9	4	4	5	22	14	15	80	0.035
56-60	15	17	16	17	7	45	52	61	230	0.100
61-65	1	8	7	4	3	12	38	43	116	0.050
66-70	3	12	16	23	5	23	98	88	268	0.117
71-75	2	2	10	6	2	6	33	35	96	0.042
76-80	6	12	7	14	4	9	102	80	234	0.102
81-85	—	2	3	2	2	3	30	21	63	0.028
86-90	3	1	1	—	5	2	26	17	53	0.025
91-95	1	1	—	—	—	—	5	3	10	0.004
96-100	—	1	2	3	5	1	22	16	50	0.022
101-110	—	1	—	2	1	—	1	1	6	0.003
111-120	—	—	1	—	4	—	2	1	8	0.003
121以上	—	—	—	—	3	—	5	2	10	0.004
不 明	54	4	2	14	20	6	4	1	105	0.045
計	607	196	134	123	71	280	450	426	2,287	
平均額	31.43 円	47.73	52.88	64.12	81.23	52.85	74.85	70.90		

即ち自宅より通學せる者は一五圓乃至五〇圓位が最も多く、親戚知人は二〇圓乃至六〇圓、寄宿舎は四〇圓乃至七〇圓、下宿屋素人下宿になると五〇圓乃至九〇圓が大半を占めてゐる。而して『全体を通じて一〇〇圓以上の學費を費せる者は僅に二四人にして全体の一％に過ぎない、是を以て觀るも東大學生の殆ど全部が中間階級以下の子弟に屬することを明かに知り得る』のである。（第二表註）

尤も單に此一個の調査統計のみを以て全般を推す事は勿論、絶対に正しき判斷とはなり得ないであらうけれど、併し全国各地方から集れるこれら帝大生の生計狀態は、又必ずしも一般を推すに全然適しないものとも言へまい。否之によつて十分とは言へないまでも或程度の推測を下すことは可能であると信ずる。

さて上述の事によつて現代學生の大部分の背景は中間階級であるとなすことが、大体に於て認めらるべき推定だとすれば、然らば此中間階級とは如何なる社會的地位にあるものか、又現段階に於ける資本主義の下にあつては如何になり行くべき運命の下にあるのか、といふ事が吾々當面の問題となつて來る。何となれば吾々の背景が中間階級たる以上、その發展没落は直接吾々の上に反映し、吾々の經濟生活に影響するものだからである。

### 中間階級の發生と其没落

然らば中間階級とは如何なる社會群を指すか、といふことは以上述べし所で大体の概念は得られた事と思ふが尙詳しく言へば月收六〇圓以上一五〇圓以下の家庭、具体的には俸給生活者の大部分、自由職業者及び中小商工業者の大部分、自作農恩給生活者及び地代又は利子による生活者の或部分、勞働者の上流に屬する者等が其中に含まれてゐる。（東京府社會課の定義に依る）先づ之等の者が中間階級といふ一個の社會階級の中に含まれてゐるのであるが、通常其性質に従つて舊新二つ中間階級に區別されてゐる。即ち手工業者小賣商人自作農等の獨立した經濟主体は舊中間階級と呼ばれ、官公吏銀行會社員其他各種の被使用人等の從屬的經濟主体は新中間階級と言はれてゐる。而して又これら二つの中間階級は夫々の性質に従つて獨自の發生史と衰亡史とを

持つてゐる者であるが、何れにせよそれが資本主義の圓熟及びその没落過程への轉落と共に、プロレタリア化し没落し行くといふ點に於ては全く一致してゐるものである。

## 一 舊中間階級の發生と其没落

だが吾々は先づ夫々の獨自性に從つて其發生史と衰亡史とを繙かねばならぬ。舊中間階級は如何にして發生し何が故に没落の悲運に面せねばならぬのか。舊中間階級の發生は正に、封建經濟が崩解して手工的工場工業の經濟に入つた時期に溯らねばならぬと青野季吉氏は其中間階級論に於て言つてゐる。即ち「中世の農奴から最初の都市の特許市民が發生し、此特許市民からブルジョアジエの最初の要素が生長して來た」(マニフェスト)のであるがこの「ブルジョアジエの最初の要素こそ舊中間階級の萌芽に外ならぬと言ふのである。而して此萌芽は、擴大せる市場の需要に對して封建的產業組織が最早應じ得なくなつた時に之に取つて代ることにより、その社會的地位が確立されたのである。所がかゝる歴史的必然によつて生れ出でた舊中間階級は又、同じく歴史的必然によつて没落の途を辿らねばならなくなつた。それは何か、小止みなき歴史の進展に伴ふ、マニユファクチュア時代より大工業時代へ、大工業時代より金融資本主義時代への時代の推移である。然らばかゝる時代の變遷は何故舊中間階級をして没落せしめたのであるか。産業革命の襲來と共に產業組織、工業組織は急激なる變遷を遂げ工業に於ける中間階級の位置は工業の百萬長者全産業軍の指導者近代ブルジョアジエによつて奪はれたのである。而して其近代ブルジョアジエまで向上したものは舊中間階級中の上層であり少數者であつてその下層をなす多數者はプロレタリアート化していつた。

即ち産業革命の襲來以來これまでの中間階級の下層——小職場主小商人及び小地主手工業者及び農民の凡ては徐々にプロレタリアートへと沈んで行つたのである。その由つて來る所は一部分は彼等の資本が少いたために近代産業を遂行することが出來ず、大資本家との競争に於て底へ吸ひ込まれて了ふからであり、一部分は彼等の特殊の職業上の熟練が新たな生産方法によつて無價値なものとされて了つたからである。

實に舊中間階級の没落、其プロレタリアート化は、かくの如き歴史の進展に伴ふ必然であつて、資本主義生産方法の繼續する限り如何ともすべからざる過程である。而して此没落過程は資本主義がその最後の段階と言はれる帝國主義時代に入つた今日に於て殊に飛躍的に進展し、産業恐慌、金融恐慌の永久化一般化は彼等をして身動きもならぬ生活窮乏の中に押し込めてゐるのである。今日吾々の前に展開せられてゐる世相は何を物語る。金融資本主義帝國主義時代へ入つた現代日本が吾々に示してくれる痛ましき生活難の世相は何を物語る。それは明かに舊中間階級の没落を教へてゐるものではないか。試みに思へ、今春の金融恐慌を、ある時に當つては舊中間階級も亦生活窮乏、没落の圏外に立つことは出来なかつたではないか。當時労働農民黨は聲明書を發して言つた。

「かくの深刻なる金融恐慌は、必然に深刻なる社會的不安に轉化せざるを得ない。小商工業者は資金の途を斷たれて直に路頭に迷ふてゐる。一般中間層農民は彼等の虎の子の預金を釘付けにされてしまつた」と。

げに手工業者小賣商人自作農等の生活は今日正に、窮迫のドン底に追ひ込まれ、再び浮び上る望みもなき絶望の深淵に沈んでゐる。かくて彼等の辿る途は只没落の一路が残されてゐるのみとなつた。果して然らばかくる家庭より送られてゐる三割内外の學生が、生活窮乏に喘いでゐないと誰が斷言し得やう。

## 二 新中間階級の發生と其没落

次に然らば新中間階級は如何にして發生し何が故にプロレタリアート化して行くのであるか。此階級は舊中間階級と異り資本主義の發達が生み出した產物である。即ち「獨立の小産業が次第に大産業のために蠶食されて、資本主義の確立されるに従つてその産業組織の下に發生、増加したものが所謂新中間階級である」（青野季吉氏、中間階級論）その何故に發生、増加せるやと言へばそれが資本主義的經營の特性だからである。

換言すれば「資本主義的經營は、資本家の計算によつて、利潤の獲得を目的として行はれるものであるが、その經營の實質に



於ては、資本家は資本即ち流通資本及び固定資本の法的所有者、従つてその利潤の專得者として現はれるに過ぎないのであつて經營の實際は、技術上管理上の各種の被用人によつて行はれるものであり、行はれざるを得ないものだからである」。(前掲書) 即ち知る、新中間階級即ち官公吏、銀行會社員其他各種の被用人の發生増加は、資本主義生産組織の有する又有せねばならぬ一個の條件であり特性であることを。斯く其發生の歴史に於て舊中間階級と異なる新中間階級は又、その社會的地位及び没落の過程に於ても前者と其趣きを異にしてゐる。それは全く資本主義への従つて又ブルジョアへの隸屬と奉仕とによつて其生存を維持してゐるものであり、しかもそれ故に又必然的に没落せざる事を得ない運命の下に置かれてゐるのである。しかも此隸屬と没落の度合は、資本主義の圓熟及びその没落過程への轉落に伴つて、益々加速度的に高まつて行くのである。それは何故か、「資本主義が十分な利潤を擧げる事の出來た間は、その利潤によつて此階級を十分に賄ふことが出來た、が資本主義は常にその増大する利潤を保守することは出來ない。

否それを保持しやうとすればそこに必然に戰爭の危機が来る。事態がかう進んで來ると、資本主義は最早新中間階級に對して十分なる賄ひをすることが出來なくなる」からである(前掲書)又他方新中間階級自身の間にも此没落の種子が蒔かれてゐるのである。即ち新中間階級の數に於ける増加からの競爭の激甚化といふことである。即ち「新中間階級分子は、幾多の教育施設によつて生産され、増加される一方である。所で他方、最早資本主義はこの要素を吸収しつくす事が出來ない。加之、崩解期に向へる資本主義は、その人的裝置を縮小して、從來賄つてゐた被用人さへ解雇し、資本家國家は經費節減を余儀なくされて、從來多數に收容してゐた官吏を整理する。かくて新中間階級間の競爭とその結果たるプロレタリア化は度合を増すばかりである。」(前掲書)此點勞動階級のそれと全く事情を同じくする。

再び思へ、今春の金融恐慌を、續出せる休業銀行や會社商店に於ては、多かれ少かれ失業者を出さざるはなかつた。近江銀行に於ては三百名、十五銀行に於ては五百名の行員が一團として街頭へ投げ出された。川崎造船所では三千の職工が職を失ひ、鈴木商店では二千の人々が路頭に迷はされてゐる。かゝる集團的悲劇が頻々として起つて來ると共に、益々サラリーマンの經濟的

地位は没落し、そのプロレタリアート化は飛躍するのである。

然らば又かくの如き家庭より送られてゐる二割内外の學生の生活が、窮乏の底に沈められてゐるであらうことも又見易き道理ではなからうか。

### 學生々活の窮迫

以上私は、極めて簡單ではあるが大体中間階級の没落の必然性、及びその現在に於ける没落の状態を述べて來た。よつて之より進んで學生の生活狀態へ筆を進めやう。勿論現代學生の經濟生活が窮乏の中にあることは上述の事によつて十分推測せられ得るのであるが、今少し統計的に數字の上から之を觀察することが、吾々がそれへの對策を講ずるに當つて絶対に必要だからである。先づ次に掲ぐる學生共濟會調の收入別統計によつて、學生が如何にして學費を捻出してゐるかの一斑を窺ふことにする。

（第三表）

第三表 學資金收入別統計

學 資 出 所	實 家		親 戚		後 援 者		青 英 會		內 職		其 他		不 明
	全 部 支 辨	一 部 支 辨	全 部 支 辨	一 部 支 辨	全 部 支 辨	一 部 支 辨	全 部 支 辨	一 部 支 辨	全 部 支 辨	一 部 支 辨	全 部 支 辨	一 部 支 辨	
法	563	111	23	39	26	42	8	71	8	49	2	14	0
	674		62		68		79		57		16		
文	186	51	12	13	6	16	3	21	7	30	3	11	0
	237		25		22		24		37		14		
經	257	43	5	19	5	9	3	14	3	10	1	9*	
	300		24		14		17		13		10		0

工	279	55	6	10	8	25	5	31	3	36	3	10	0
	334		16		33		36		39		13		
種	99	21	2	3	2	7	6	12	3	7	3	2	1
	120		5		9		18		10		5		
職	154	33	10	3	4	13	2	19	5	12	0	3	1
	187		13		17		21		17		3		
農	135	18	5	11	4	5	0	6	3	7	1	2	1
	153		16		9		6		10		3		
計	1673	332	63	98	55	117	27	174	32	151	13	51	3
	2005		161		172		201		183		64		
比率	0.72	0.14	0.03	0.04	0.02	0.05	0.01	0.08	0.01	0.07	0.01	0.02	
	0.86		0.07		0.07		0.09		0.08		0.03		

(註) 學資金の出所を見るに實家より支出し居れる者は矢張り最も多く全体の八割六分に達すれども、然しそれによりて學

資金の全額を支出し居れる者は七割二分にして全体の三分の二に過ぎず。残りの三分の一の學生は親戚より或は篤志家より育英會等より送金を仰ぎ、若くは内職によりて辛うじて學資を捻出し居れる状態にあり。就中、内職によりて學資の一部を補ひ、或は其全部を支辨し居れる者全數の八%に達するを知る。斯くの如く親戚、篤志家に學資を仰げる學生郷黨の與望を擔ひて奨學資金に學ぶ貧しき秀才、さては家庭教師に翻譯に製圖にと辛くも赤門三年の苦闘と研究とを續くる人々の如何に多き事よ。或は家塾を開きカフエーを出し、球突場を營む等自給自足を營める學生に對しては深甚なる同情を寄せざるを得ず。實にブルジョアの子弟と呼ばれ、特に階級の寵兒と罵らるゝ帝大生が名と實の伴はざることの甚だしきものあるを知るなり。

表中其他とあるは借金をなせる者。陸海軍委托生として官費支給をうけ居れる者。恩給による者。或は支那留學生の官費支給等を含めり。

一部支辨は資金の互に交錯せるものなるが、中には四五ヶ所より小額宛の學資をうけつゝある人も尠からず見受けられ

此統計に於て吾々は、多くの學生が如何に學資の捻出に苦心してゐるかを知り得るのである。一切は註に譲りて贅言を省くが「ブルジョアの子弟と罵らるゝ帝大生が」の觀あるも當然だと思はるゝのである。之だけの學資を費してゐる學生がブルジョアの子弟と見らるゝも致し方はないが、併し其内實は學資の捻出に火の車であることを見逃すことは出来ないのである。次に學資總額は前掲せるを以て之を省くとして、此學資が如何に支出せられてゐるかを見るに、先づ間代統計と賄料統計とによつて其宿所費を見るに次の如くである。（第四表、第五表）

第 四 表

間 代 統 計

(A) 市内素人下宿 借間間代（一疊當り）

住居區域	素人下宿	借 間
本 郷	2.54	2.54
小石川	2.45	2.61
牛 込	3.05	2.19
麴 町	2.81	—
芝	1.67	2.50
四 谷	2.40	1.66
赤 坂	2.28	—
下 谷	2.90	2.29
平 均	2.51	2.30

(B) 郊外素人下宿及借間間代（一疊當り）

住居區域	素人下宿	借 間	住居區域	素人下宿	借 間
大 塚	2.50	—	長 崎	2.57	—
平 塚	1.25	1.50	井 荻	2.33	—
日 黒	1.55	2.04	中 井	1.38	—
駒 澤	2.33	—	戸 塚	2.15	1.94
澁 谷	2.46	2.42	高 田	2.00	—
世田ヶ谷	1.43	2.86	落 合	1.75	2.00
千駄ヶ谷	2.11	2.25	西 栗 鴨	2.11	2.00
代々木	2.27	2.16	栗 鴨	2.40	—
澁 谷	2.21	2.14	王 子	—	1.00
大久保	2.30	3.43	瀧ノ川	2.36	1.90
中 野	2.25	2.23	瀧ノ川	2.16	—
野 方	2.17	1.75	日 暮 里	2.09	—
杉 並	1.73	2.17	平 均	—	2.11

(註) 宿料中市内外の素人下宿並に借間について一疊當りの間代の統計を取りしものなり。間代の當否を判定し若くは其高低を比較する場合に單に其一疊當りののみを目標とするは正確なる方法に非ざるは勿論なるも、其大体を窺知し且つ最も簡便なる點に於て一般に常用せらるゝ手段なるを以て之を算出せし次第なり。下宿業者には公定相場なるものがあるを以て此處には其統計を避けしが、一般に素人下宿借間等より高價なり。

(附) 本郷區内下宿業者座敷料は一疊當り最低二圓より最高四圓までにして(但し特等を除く)電燈料は別に支拂ふものとす

第五表  
賭料統計

居住別 賭料	寄 宿 舍		下 宿		屋 宿		素 人		下 宿	
	二 食	三 食	二 市 内	食 市 外	三 市 内	食 市 外	二 市 内	食 市 外	三 市 内	食 市 外
11	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—
12	6	1	—	—	—	—	—	—	—	—
13	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—
14	—	—	—	—	—	—	3	—	—	—
15	13	44	—	—	—	—	5	12	1	1
16	1	1	—	—	—	—	3	2	—	—
17	—	8	1	—	—	—	7	2	—	1
18	4	46	3	—	—	—	21	18	4	2
19	—	5	2	4	—	—	4	4	—	1
20	6	24	10	5	—	—	44	17	13	7
21	—	9	10	—	2	—	12	9	11	4
22	1	1	7	1	6	—	13	7	9	2
23	1	6	—	—	3	2	1	6	9	9
24	—	3	4	—	11	4	2	2	13	3
25	2	10	2	—	76	4	2	4	14	8
26	—	—	1	—	104	3	2	—	7	1
					67	—	—	—		

27	—	1	—	—	63	—	—	—	—	—
28	—	—	—	—	24	—	—	—	—	—
29	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
30	—	2	2	—	3	—	—	—	—	—
45	—	—	—	—	2	—	—	—	—	—
平均	17.40	18.54	21.54	19.80	25.41	22.59	22.76	19.53	22.91	22.13

(註) 食事の質及量等は各々千差萬別なるが故に一概に言ふ事能はざれども一般に下宿屋營業のものよりも、素人下宿の方が廉く、寄宿舎は更に其以上に廉き事云ふまでもなきなり。圓以下の端数は四捨五入し置きたり。

此賄料の平均額に區域別による間代を加へて一ヶ月の宿料(但下宿屋を除く)を算出せられたし。

(附) 本郷區内下宿業者賄料公定相場は下の如し(但一ヶ月賄料)

二四圓 二七圓 三〇圓

學生の賄料は二四圓を普通とし晝食抜き二一圓なり。

即ち市内の素人下宿に居て四疊半一間で一ヶ月約三三圓の宿料を拂はねばならぬ事になる。つまり學資の約半分は宿所費に當てられてゐる事がわかる。當地で云へば間代が一疊一圓、賄料が二一圓といふのが通り相場であるから月二五、六圓と見積られる。學資總額五〇圓と見てやはり半分は宿所費に當てられてゐるわけである。下宿屋問題といふものが、學生々活の問題を論ずるに當り、重要な位置を占めてゐる事が之によつても知られるのである。茲に於てか下宿人同盟の必要が痛感せられるのである。恰かも借家住ひをなせる下層階級の人々にとつて借家人同盟が必要である如く。

第 六 表

研究費 學部	1—5	6—10	11—15	16—20	21—25	26—30	31—35	36—40	41—50	100以上	不明	計	平均額 円
法	110	371	135	48	16	6	1	6	—	—	87	780	11.12
文	22	102	58	45	12	16	2	4	3	—	20	284	15.14
經	32	171	37	30	5	4	1	—	—	—	45	325	10.96
工	53	141	69	30	3	5	1	1	—	—	80	383	11.30
理	18	45	23	19	5	5	1	1	2	1	20	140	15.19
醫	9	74	44	34	14	5	1	2	—	—	33	216	11.51
農	22	79	36	19	1	4	1	1	1	—	11	174	11.84
計	266	983	402	225	55	45	8	15	5	1	296	2,302	
比率	0.11	0.43	0.17	0.10	0.02	0.02	—	0.01	—	—	0.13		

次に第六表によつて窺ひ知られる研究費であるが此研究費が月一〇圓余りであることは、私に言はしむれば少なすぎることである。参考書や研究材料や必要なる刊行物を購入する金が月一〇圓余りよりないとは余りに慘めである。之何に由來するやと言ふに、それは下宿代被服費授業料等に多額を要するが故である。又一方書籍類の高價なることも研究費の不足を歎ぜしむる原因であると言ふを要しない所である。こゝにも吾々の向ふべき問題が潜んでゐる。其他の雜費は次表の如くである。(第七表)

第七表

雜費統計

住居別	自宅	親戚	知人	借間	借家	寄宿舎	下宿屋	下宿	計	比率
1-5	27	7	2	9	1	8	4	3	60	0.03
6-10	95	23	17	14	4	37	24	24	238	0.10
11-15	95	28	20	20	6	45	45	43	302	0.13
16-20	107	41	26	21	9	63	73	77	417	0.18
21-25	72	25	20	11	8	43	35	81	355	0.15
26-30	48	27	17	15	6	28	73	64	278	0.12
31-35	22	14	15	7	5	17	52	65	188	0.08
36-40	17	8	7	4	7	9	22	40	114	0.05
41-45	4	6	1	—	1	4	15	6	37	0.02
46-50	2	—	1	—	—	—	6	4	13	0.01
51-55	4	2	—	2	—	—	3	1	12	0.01
56-60	1	—	—	—	1	—	2	1	5	—
61-100	1	—	—	20	24	26	36	26	268	0.12
不明	113	113	18	123	71	280	450	426	2,287	—
平均額	19.65	22.28	22.52	18.94	26.57	19.93	25.11	29.39	—	—

尙茲に一つ注意せられねばならぬ問題がある。それは疾病の問題である。病氣にかゝれる學生の精神的苦悶は、暫く之を問はずとするも、それがために受くる經濟上物質上の影響は決して尠少なものではない。殊に治療に多くの日数を要する病氣に於てはそれが一層甚だしい。況や病氣にかゝつても金のために診察をうける事すら躊躇せねばならぬ者に至つては憐たる限りであるかゝる人が何人あるか知らぬが、之は數の多少に拘らず、何等かの施設によつて安心して治療し得る途を講ずることが是非必要である。かうした人々も決して少くない事を知るために東大に於ける統計を轉載しておかう。（第八表）

第八表  
宿病統計



宿病	科		外 科	眼 病	耳鼻喉科	齒 病	神經系統	其 他	計
	呼吸器系	消化器系							
學 部									
法	16	76	12	7	26	3	18	12	170
文	12	28	4	2	9	0	5	11	71
經	4	27	6	1	11	1	5	10	65
工	6	28	6	0	6	0	6	6	58
理	6	5	3	1	4	0	1	3	23
醫	6	15	2	1	1	1	6	8	40
農	7	16	6	1	4	0	4	4	42
計	57	195	39	13	61	5	45	54	469

### 學生協同組合運動

以上の如く現代學生は生活の窮乏に苦んで居り、且つ此傾向は年と共に深まつて行きつゝある。中間階級の没落と一般社會生活の不安窮迫とは學生の經濟生活の行き詰まりを豫想せしめてゐる。然らば吾々は此窮境を如何にして脱すべきか、吾々が單に拱手して吾々の没落と窮迫とを傍觀してゐられないとすれば、吾々は如何にすべきか、新社會が建設せられて吾々が救はれるまでボンヤリ待つべきであるか。否、斷じて否、それは本來を轉倒したやり方である。見よ、あらゆる被抑壓階級は皆自己の力を以て己を束縛せる資本主義の桎梏を脱せんとしてゐる。吾々も又吾々自身の力を以て吾々の解放を圖らねばならぬ。

然らばそれは如何なる運動であるか、即ち學生協同組合運動之である。それは一校より二校へ、二校より三校へ、やがては學生協同組合全國聯合會の組織によつて、下宿屋と闘ひ、營利商人を驅逐し、吾々自身の手によつて宿舍を建て被服を造り、文具

を製造し書籍を刊行し、病院を経営して以て資本主義倒滅にまで高められねばならぬ。こゝにこそ吾等學生協同組合運動の理想があり目標があるのである。

理想は高い、高いが故に空想と誤られ易い。だが見よ、ロツチデール平等開拓者を。僅かに二八人の労働者によつて初められたあの運動が、流れくつて今日の盛大にまで赴かんと誰か豫想したらう。

だがかく高き理想を仰ぎつゝも一歩々々の現實を堅く踏みしめて行くのが此運動、否あらゆる社會運動の精神である。吾々は先づ何をなすべきか。

## 當面の仕事

こゝ龍南の地に學生協同組合運動の烽火を擧ぐるに當りて然らば、吾々は先づ何を爲すべきか。私は當面の仕事として次の事をあげたい。

あらゆる方面に於ける調査……之は吾々が此運動を如何に始め、如何に展開せしむべきかについての科學的基礎を得るために絶対に必要であるから、先づ第一に爲されねばならぬ事である。私は之を次の諸項に分ける。

一、生計調査 吾々の生活狀態を萬般に亘つて調査することが、此運動を初めるに當つての基礎的必要事たる事は言をまたない所である。全龍南人は一人残らず此調査に應ずる義務がある。

一、物價調査 殊に食料品、文具類、被服（以上三種は下宿屋問題營利商人軀逐問題のため必ずなされねばならぬ）、醫療費の調査。

一、内職調査 學資低減の一方法として内職の紹介は是非必要なるが故に、學生として得らるゝ内職を調査する事。

一、製造所調査 協同組合も最初から自ら生産する實力は有しないから、先づ製造者から直接仕入れをなさねばならぬ。之がために必要なる製造業者を調査し置く事。

一、他校に於ける實狀調査、既に此運動を起せる學校へ、例へば早大の如きに於ける實狀を調査して參考となすを要す。

一、他校へ勧誘 龍南一個では下宿屋問題一個の解決も容易ではない。醫大藥專高工との連絡は絶對に必要である。

先づ以上の六項目の仕事がなされねばならぬ。而して之は私の考では、總務部の下に若くは協同組合設立委員會を設けてその下に、調査部を置いてなさるべきだと思ふ。而して設立委員會は、全龍南人が此運動に参加さるれば各級より選出せられた委員を以て構成し、然らずんば、此運動に献身的努力をなさんとする有志の方々にお願ひするまでである。

之等の基礎的調査がなされたならば、愈々第二段の活動即ち組合設立に向ふのである。だが茲には只私の考ふる概略の腹案を述ぶるに止めることにする。何故ならそれは協同組合設立委員會の如きに於て、更に綿密に研究せらるべきだからである。只參考にもならばと概略を述べる。

先づ全龍南人の出資によりて協同組合を設立し其下に次の諸部を設く。

#### 一、仕入部 一、販賣部

製造業者より直接文具被服類を仕入れ、且つ集會所を經營し以て榮文堂松石等を吾等が龍南より驅逐する事。其一々の組織、仕入法販賣法及び利益分配法の如きは他の機會を得て參考に資せんと欲するが、詳細は委員會に於て研究することにしたし。

#### 一、下宿人同盟

本同盟は更に、高工醫大藥專のそれと連合し、以て熊本四高專下宿人同盟聯合會を組織し團結して下宿屋に當る事。

#### 一、保健衛生部

適當なる病院と交渉し、本組合員に對する特別診療の途を講ずる事。

#### 一、職業紹介部

市の有力者と連絡をとつて就職の便宜をはかる事。

協同組合の旗の下に（高 石）

かくの如くして漸次發展せしめて行き、最後に學生協同組合全國聯合會の組織に至れば、吾々自らの製造部を設け、そこに於て吾々に必要なあらゆるものを生産し、そこより仕入れて販賣し、組合の利益は組合の事業を擴張し、宿舍の建設も病院の經營も完全に爲し得るに至るであらう。

誰か之を稱して夢想と呼び空想と罵る者ぞ！、然らば見よ、ロツチデール平等開拓者組合を。今を去る八四年の昔、一八四四年二月二日、英國ランカシャはロツチデールに於て貧しき二八人の勞働者が、漸くにして據金した二八磅の金を以て、ロツチデール平等開拓者組合の呱呱の聲を擧げた時に、誰か果して今日の協同組合運動を豫想したらう。しかも見よ、彼等は、今日全英國に一〇八ヶ所の大工場を有し、三〇〇万の組合員と二八〇〇万の資金とを持つて、著々として協同社會建設への途を急いでゐる。おゝ！ロツチデール平等開拓者の胸に流れた赤き血潮、之ぞ吾等の運動をして完成へ導く唯一の源泉である。吾等の求むるは實にこのロツチデール平等開拓者の精神である。

さらば全龍南一千の健兒諸君よ起て！ 協同組合の旗の下に！ 龍南幾代かの血と涙の奮闘を以て此運動を完成すべく、こゝに高く／＼學生協同組合運動の烽火を擧げよ！！

擲筆に際し私は、私のこの小論が實を結ぶ日の來るべき事を心より希ふと共に、深くその日の來るを信ずるものである。